



学校キャラバン

in 福岡第一高等学校

令和7年6月6日(金)



(一社)全国道路標識・標示業九州協会



令和7年度 福岡第一高校 学校キャラバン

実施日：令和7年6月6日(金) 10:00～11:45

参加者：学校法人 都築学園 福岡第一高等学校
建築デザイン科 2年生30名

場 所：福岡第一高等学校
(福岡県福岡市南区玉川町22-1)

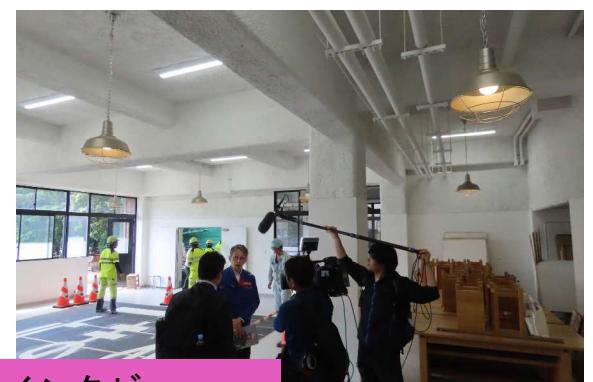
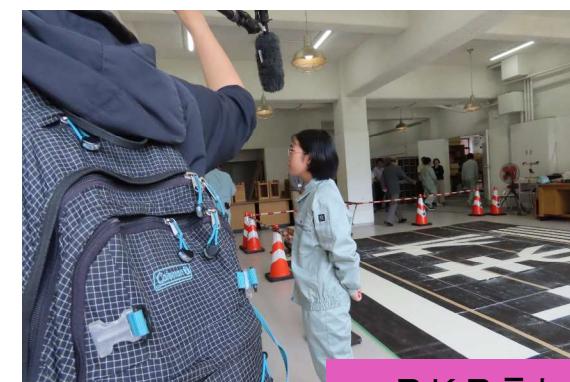
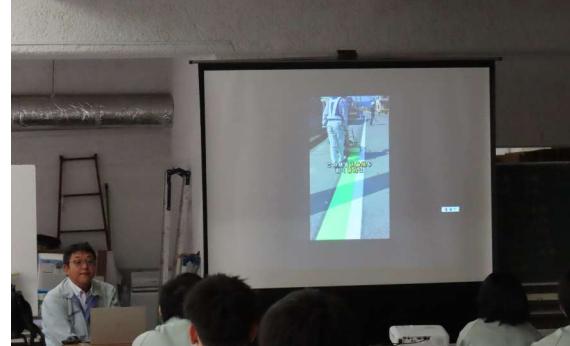


【カリキュラム】

若年者雇用対策としての講習会カリキュラム

時 間 割	内 容
10:00	開 講
10:00～10:05 (5分)	挨拶 九州協会 福岡県支部長 星子 洋満
10:05～10:15 (10分)	挨拶及び講和 九州地方整備局 建設産業調整官 朝崎 豊
10:20～10:25 (5分)	全国道路標識・標示業九州協会の活動について 九州協会 事務局長 川畑 孝幸
10:25～10:35 (10分)	路面標示の施工状況について(ビデオ) 九州協会 福岡県支部長 星子 洋満
(実習室内作業場へ移動)	
10:35～11:10 (35分)	実習室内で、路面標示に伴う作図作業(施工を見学) 九州協会 福岡県支部長 星子 洋満
11:10～11:30 (20分)	実習室内で、路面標示施工作業の体験 九州協会 福岡県支部長 星子 洋満
(実習室へ移動)	
11:30～11:45 (15分)	実技における講評、生徒からの感想・質問など 九州協会 福岡県支部長 星子 洋満
11:45	閉 講

学校キャラバンの様子（福岡第一高等学校）



■生徒や先生からの質問、感想など

- ・まっすぐに線を引くコツは?、直線と曲線ではどちらが難しい?
- ・就職するにあたっては、何の勉強をすればよいか?
- ・会社が採用するにあたり、何が必要と思っておられるか?
- ・夏場の熱中症対策などは、どうされているか?



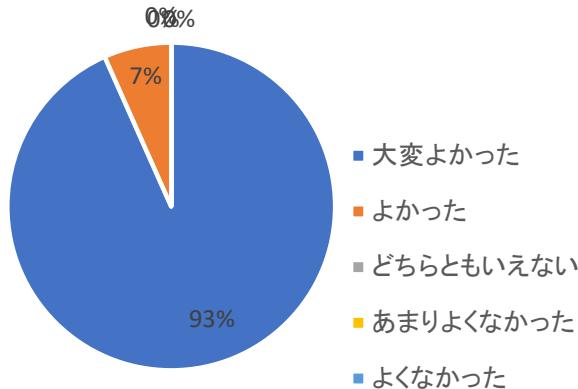
●全標協企業の皆さんから

- ・やっぱり曲線が難しい。線を引くコツは、頑張って熟練するしかない。
- ・意外と学校の勉強は大切。ただ、人とのコミュニケーション能力が大事。
- ・挨拶がてきて、話を聞ける人を求めている。元気よく挨拶できる人。
- ・熱中症対策は法的に義務化されており、会社でもこまめな休憩時間、ジュースなどの水分補給など、十分対策を行っている。

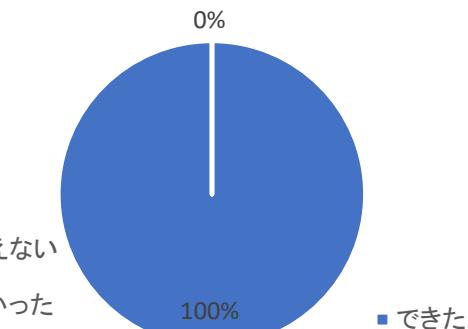
生徒のアンケート結果【学校キャラバン】

学校キャラバンに参加した福岡第一高校の生徒15人が回答
(男性14人、女性1人)

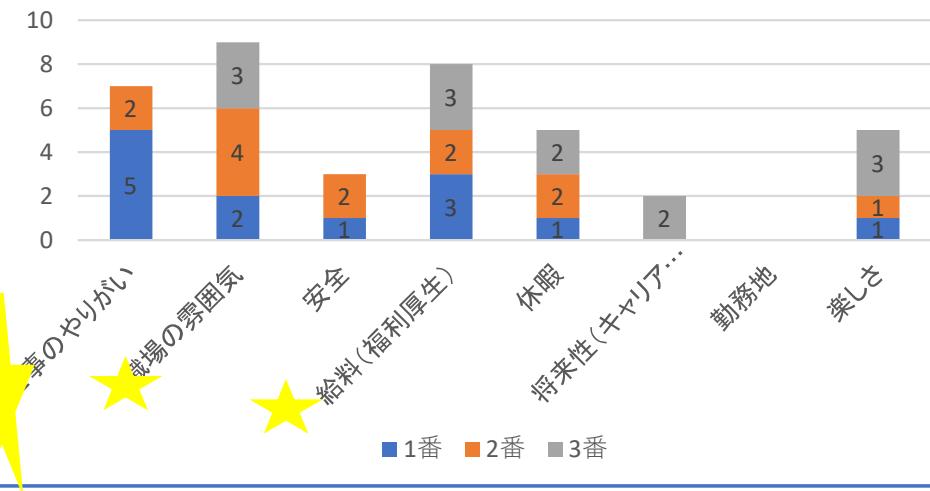
全体のプログラムを通しての感想



本日の作業体験で、具体的に職種内容をイメージすることができたか



自分が建設業を職業として選ぶ場合に意識する条件 (1~3番目)



今回の出前授業を含め、建設業の仕事について どういう職業イメージがあるか (複数回答)



今回の出前授業を受け、 建設業の仕事が職業選択の一つとなったか



アンケート結果

主な感想、興味を持ったこと

- ・説明がわかりやすく、実際に現場に出ている方達からの有り難いお話が聴けてとてもよい授業だと感じました。
- ・白線を引く体験ができ、建設業でも様々な仕事に分かれている、自分が知らないような仕事が出てきた。建設業の未来が楽しそうだと思いました。
- ・自分の想像よりも楽しくて、進路先の選択に加えようと思いました。
- ・普段学んでいないことを色々と聞いて勉強になった。将来仕事に就くにあたって、学べたのでよかったです。
- ・週休2日という工期全体の取り組みに、無理をせずにできる仕事だということがわかったので、興味がわきました。
- ・一番休暇がとれて、給料のいい仕事は何か知りたいです。
- ・実際に体験できる場を設けてもらったことがすごくうれしかったし、体験してみて、思ったよりも緊張して、難しいと感じました。
- ・今日の出前授業で体験した白線を引くという難しさと引けた時の楽しさを学んで、とても興味がわきました。
- ・今日は土木工事のことがメインでしたが、建築工事のことも聞いてみたいと思いました。

教員のアンケート結果

- ・今年も忙しい中ありがとうございました。来年も引き続きよろしくお願い致します。
- ・この時期の社会体験には十分役に立ったと思います。

新聞報道されました

【R7.6.10 建設通信新聞】

〔R7.6.10 九建日報〕

福岡第一高生に路面標示体験

整備局、九州建専連が出前授業



九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会は6日、福岡市南区の福岡第一高等学校建築デザイン科の2年生を対象に、出前授業を実施した。(一社)全国道路標識・標示業九州協会の協力により、路面標示の作業体験=写真=を行い、普段無意識に目についている交通安全施設が果たす役割と、それを支える仕事の重要さを、生徒たちは実感したようだった。

出前授業は、九州地整と九州建専連が、建設業への若手入職者の減少や高齢化などの課題を踏まえて、担い手の確保・育成のために実施しているもの。

授業開始に当たり、全標協九州協会福岡県支部の星子洋満支部長は「業界に興味を持ってもらい、将来の就職時の選択肢の一つになればうれしい」と話した。



九州地整の朝崎豊建設産業調整官は、建設業の役割や新4Kに向けた取り組み、仕事の魅力などを紹介し、「作業を通して、ものづくりの楽しさを体験してほしい」と話した。また、同協会の川畠孝幸事務局長は、業界について建設業許可や工種などを中心に説明した。

その後、実習室内作業場に移動し、全標協九州協会の会員企業が「止まれ」などの路面標示の作図と施工作業を実演。生徒はその様子を見学し、実際に施工機を用いて作業を体験した。生徒からは「まっすぐに線を引こうとしても、ずれてしまい難しかった」という声が聞かれた。技能者の指導を受けて白線を引く貴重な体験ができたことで、進路について考えるきっかけになったようだった。

RKBテレビでニュース放映されました。



建設業について知ってもらおうと、九州地方整備局と業界団体が福岡市の高校で出前授業を行いました。出前授業を受けたのは、福岡第一高校建築デザイン科の2年生30人です。建設業界は従事者の減少や高齢化が課題となっており、学生に将来の選択肢のひとつとして考えてもらうため、2017年から出前授業を行っています。担当者は「少しでも若い人が建設業に興味を持つてもらいたい」と話しました。